



グローバル基準

令和6年7月6日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

社会との共存と社会貢献という新しい企業の社会市民としての参加は企業が唯一利益を追求するのではなく、社会への責任というグローバル基準を受け入れることを提案する。

これら新しい現実社会市民として新しい社会との関係の構築を行うものである。

これらは社会との共存という新しい企業の環境であり、グローバル医業として世界各地で自己を行うことへの正しい必要性和選択である。

これらは企業の運営と経営基準の転換であり、世界のメジャーなどが社会貢献を有することに対して自己利益の追求は肯定されないものである。

これら共有のルールにおける新たな市場への参加は、必ず新しい関係の構築を実現できるのである。

これら共生という基盤は企業の新たな飛躍を製品や技術と遠に模索できるのである。

これらは独善性な必ず否定されるものであり、共有のルールにおける参加は必ずしも否定されないものである。

これらはグローバリゼーションにおける正しい理解であり、企業の国際戦略における選択として不可避の理解なのである。

これら企業の閉鎖性や、企業倫理的欠如という基盤において世界との対等な対話は不可能である。

これら共有のルールの受け入れは、必ず企業における新しい可能性なのである。

これらは発想の転換であり、企業における新たな飛躍の基盤であることは必ずできるのである。